



# 12年前日記

---

2000年2月3日（木）

---

山田夫妻

---

【2000年2月3日(木)】\*2012年2月3日(金)記

9時、起床。今日はニーサンの日ですね。じゃあ、いきなりみんなの兄貴らしいところをバシッと見せてやるぜ。水シャワー部屋に6連チャン目(180B)。ええ、何の用もないのにまた連泊でっせ。ふん、でも、昨日の俺とはまるっきり違うぜ、すっかり生まれ変わったんだ、見ろよ、この獣を狙うような悪〜い目つきを。あ、じゃあ、ひょっとして、連泊記録の更新を狙っている？ え、そうなの？ よ〜し、そっちもがんばっちゃお。って、違う、狙っているのは難民キャンプだ。

もう退屈しのぎ暇つぶしにグダグダするのはいい加減やめにするんだ。確かにいろいろあったり、いろいろなかったり、もうこれ以上いろいろ考えるのは面倒臭いし、いろいろ何も考えないのにも飽きたし、もち今日も特にすることないから、やっぱ難民キャンプに行こうと思う。

一昨日の昼過ぎは、このままだと難民キャンプに着いちゃうかもってところで慌てて引き返しちゃったし、昨日は一転、手の平を返したように、急がば回れた、若い頃の苦勞は買ってでもしろだを真に受けて、表面上は難民キャンプに行くんだって体裁を装い、その内実は絶対に難民キャンプには行かない方向で、メソト近郊の難民キャンプがなさそうなところを一日中ウダウダグズグズグルグルしちゃったり、昼寝しちゃったり、昼寝後もう遅いからって今日は諦めちゃったりし、そうすって今日はもう策が尽きたちゃったから、ひとつ難民キャンプにでもとつい、ついで、ついで。

どうだい、未練がましい優柔不断な男の面目りゃくじょだろ。一回逃げた難民キャンプに、一日置いたが、あえて行く勇気を賞賛しておくれ、賞賛して欲しい。そう、もう逃げちゃいけないんだ。シッカリトケジメだけはつけてこないといけない。やるっきゃナイト！までは待ってられない、まだ午前中だけんども。

11時、飽くまで部屋でグダグダしてから、ようやくホテルを後にす。別にやっぱ怖気ついて布団をかぶって、ブルブル震えていたわけじゃないんだぜ。その逆さ、地図を頭に畳み込んで、絶対に迷わず難民キャンプに行けるように予習してたんだ。予習のおかげで、やはり一昨日の道は難民キャンプに続く道であることがはっきり証明された。

まさに地図、様々だ。アレレ、まだ地図の話ってしてなかったっけ？ ほら、一昨日だかに例のFAXを見つけたときに、実は一緒に仕舞い忘れていた地図と一緒に発見したわけ。ハイ、完黙してました。

一昨日の俺ったら、本当に難民キャンプについちゃうと困るから、あえて地図は見なかったことにしてみたい。

まあ結局、地図なしでも間違えて難民キャンプに着きそうになった俺の方向感覚やここぞの悪運っぷりは記憶に新しい。そんな俺でもあのとき、地図があったらと思うとゾッとします。でも逆に地図見てたら、難民キャンプに間違えて着きそうになるなんて醜態をあらかじめ早めに回避できたかも。

いやらしい言い訳も聞きたい？ 最近は半裸乗りのせいで、変な日焼けしちゃうないようにカメラバックを背負ってないから、荷物はズボンのポケットにしか入らない。だから、元々地図を持っていくのは無理だったわけ。ポケットに入るのは、金とタバコとライターだけだもん。

でも、今日は地図が必要だし、もしかしたら初めての撮影するかもしれないからカメラやビデオカメラがいるし、もしかしたら取材するかもしれないからノートと筆記用具、後はガイドブックと指差しタイ語くらいいるしで、ひさしぶりにカバンを背負う。難民キャンプに半裸で乗り込むのは礼儀がない。男にはお出掛け前に、いろいろ準備だ用意だがあるのよ。

後、地図とは関係ないけど、11時までグズグズしていたのは、バイクの返却時間が11時過ぎだから。正直に書くと恥ずかしいから、最初は黙ってた、でも、嘘はつけないから、ホラ、今、こうして、な？ ノンフィクションは退屈や嘘もありのままにさらけ出す、すぐれた創作物です。まあ、ノンフィクションも創作物だけど、創作物って書くと嘘っぽいよね。こんな感じでウダウダ。

ちょうど返却時間の11時過ぎにバイク屋へ行き、昨日と同じ作戦で、同じバイクを借りる（160B）。

一昨日と同じ道を走りだす。本当にまた難民キャンプに行くのか？ 一昨日の俺がせっかく大根芝居をしてまで、昨日の俺がお悩みバカのふりをしてまで、なんとか難民キャンプに行かずにすむようにしてくれたのに、今日の俺はこれでいいのかい。過去の自分たちが脈々と築き上げてくれたものを、うるせい、バカは死ななきゃ治らない。行けるとこまで行ってやるぜ。難民キャンプ中を練り歩いて、従軍取材はいらんかねえって叫んで大安売りで叩き売ってやる。

今日こそはよう、このまま難民キャンプに骨を埋めてやるって気でバイクを走らせる。もうパスポートは宇宙人の親父にくれてやる、だからこのバイクは俺にくれてくんろとばかりの爆走につぐ爆走。

バイクで飛ばしているといろんな悩みが吹き飛ぶ。スピードをあげていくたびに悩みが更に吹き飛んでいく。その後、どのくらい無の境地でバイクを走らせただろう。俺のすべての悩みがキレイさっぱり吹っ飛んだときには、もはやスピードメーターは37、いや38キロをさしていた。ヤバイ安全運転安全運転とアクセルをゆるめようとした刹那、前の前を走っていたおばさんバイクが急ブレーキをかけつつ、ウィンカーも出さずに左折をば。当然すぐ目の前を走っていたバイクも急ブレーキをかけながら、ハンドルを右に切る。

おばさんは道路の真ん中へんから急にブレーキ&急左折。前の若い女性は道路の真ん中より左よりを走っていたから、急ブレーキをかけつつ、右によける感じ。

俺は道路の真ん中へんを走っていた。諸悪の根源、前の前のおばさんにはぶつからないだろうが、急ブレーキ、急右ハンドルの前のバイクとぶつかりそうに。

コチラも急ブレーキを思いっきりかけるが効きが甘い、逆に前のバイクは効きがいい。前の女性はたぶん後ろに気付いてない。とりあえず急ブレーキをかけながら器用に「キャー」と野太い悲鳴で存在をアピール。ハンドル左の持ち手の、グリップのブレーキを思いっきり握ったまま、もちろんハンドル右の持ち手の、グリップのアクセルは離しているが、その間にも前のバイクと俺のバイクは見る見る、いやほぼ一瞬にして距離が詰まる。

ありゃま、こりゃ、どうみてもぶつかるわ。じゃあ、せめてと咄嗟のナイス判断で前のバイクの後輪に、自分のバイクの前輪をぶつけながら、急ブレーキだけでなく、自分の両足を地面にふんばり、なんとかスピードを緩めようとザッザッザッ〜〜。

しかし勢いは結構残っていて、俺のバイクが前のバイクの後輪を押す感じで、スリップストリームじゃなくて、完全におかま掘って、バッチリガッチリつながった状態で、しばし二台のバイクは勢いを増しともに流れる。このまま対向車線にいくまで押す状態はマズイ、ヤバイ。躊躇わずに自分のバイクを横に倒し、倒した側の足を咄嗟に引き抜きながら、バイクから飛び、バイクを転がして止める。

前のバイクも後ろから押される力がなくなり、完全にとまる。（もしくは、こう。前のバイクが少し右に流れながら進み、ゆっくりと倒れるのを見届け、こちらのバイクのハンドルを左に思いっきり振り、強引に止めるだったかも）。

一連のことは時間にしたら1、2秒だったろうが、まるでスローモーションのようだった。

とにかく事故る。異国で交通事故だ。とりあえず倒したバイクを起こし、びっくりした顔でいきなりオカマを掘ってきた外人を見ている、前のバイクの若い女性に「すいません、大丈夫でしたか、道路の真ん中で立ち話もなんなんで」と日本語で、路肩に誘う。（もしくは、こう。前のバイクに乗っていた、姉ちゃんがバイクと一緒に倒れて、放り出されている。とにかく事故る。異国で交通事故だ。とりあえず駆け寄る。もう自力で立ち上がっている、転んだときに擦り傷ができていたようだ。大丈夫ですかと日本語で聞き、バイクを立てて、路肩に寄る）。

路肩ですいませんともう一度謝り、ちょっと待ってくださいと背中に背負っていたカバンをバイクの座席に置き、指差しタイ語を漁って、取り出す。ふと顔を上げてびっくりした。

周りには「事故だ」、「事故だ」と一瞬にして集まったらしき野次馬だらけに、そんなに交通量が多くない道なのにワラワラと。俺のバイクの後ろの状況はまったく気にしていなかったが、後ろどころか、前からくる対向車線のバイクもワラワラと野次馬よろしく周りを取り巻く。

指差しタイ語の、病院、修理を指指す。パッと見、本人も怪我はなさそうだが、後から何かあると一大事である。バイクの方も後輪にぶつただけで倒れたわけでもないので問題なさそうだが、ちゃんと見ておいて貰ったほうがいいだろう。

とりあえず病院に一緒に行きましょうと「病院」と手振り身振りで伝える。若い女性は大丈夫大丈夫と手を振って、もう行こうとする。

ワラワラと周りに野次馬も訓練されたように一緒に大丈夫大丈夫と手をふる。

それでも病院、ホスピタル、タイ語で病院（カタカナでフリ仮名が振ってある）と叫ぶ俺と大丈夫大丈夫と手をふる野次馬たちを残して、そして笑顔も残して去って行ってしまった。

野次馬たちも大事にならなかったのも自然解散。

ひとり取り残された俺は、路肩に停めたバイクに腰掛けて、タバコに火をつけた。女を泣かせてはいないが、見知らぬ女をある意味傷物にしちゃった。

ふう〜、罪な男だぜ、俺ってやつは。

と、天啓が走った。

俺がハンドルを左に切ればよかったのだ、右にハンドルを切った前のバイクとぶつかる心配は

ない。前の前のおばさんとなら、前の姉ちゃんバイクより距離があったから、たぶん当たらなかったし、もし当たったとしても、それはおばさんの自業自得。

まあ、終わったことをクヨクヨ考えても仕方ないが、もうひとつ終わったことを。

また天啓が爆走。

せめて、俺の名前と泊まっているホテルの部屋番くらい渡して、もし後から何かあったら連絡してくれと言っておくべきではなかったか。レンタバイクで事故、最後にそと「もしお望みならば、お詫びは体で払います、たっぷり利子つけて」って書いて連絡先を渡しておけば、国境で恋の花が大輪を咲かせたかもしれないのに（野良犬事件とこのオカマ掘り事件をタイニ大事件、騒乱と呼ぼうよ）、そんな紙切れからはなんか下心しか感じられないが、あの例の紙切れよりはマシだ！とウダウダ小さな後悔をしていると一体何の話だ。

そして、立て続けに二度あることは三度ある天啓が炸裂。

あの～、いい加減そろそろお暇しませんか？って。超奇遇～、俺もちょうどそう思ってたんだ。茶漬けを持って～！

幸い思い出2ができたことだし。もう体力の限界、気力の限界、資金の限界。注意一秒怪我一生、ドンピシャ怪我の功名でちょうど交通事故という立派な帰国理由ができたので、見た目には問題なくても、後から症状が出てくるもんだから、交通事故ってもんはよう。持つべきものは不幸中の幸い。

さ、もうこれ以上立派な帰国理由を今後でっちあげるのは難しいだろう、この絶好の機会を逃すべからずと帰国気分。

まあ、とりあえずは大事に至らず、帰国に至ることになってよかったよかった。もうお役御免。勤めは無事果たした。

それにしても、いつもこうだな、お前って。ようやく意を決して、難民キャンプに向かう途中で交通事故。

この前のヤラセ迷子と違って（厳密には身体共に身の危険を感じたゆえの無意識のヤラセ迷子ですが）、今回はヤラセ交通事故じゃないから。それとも何かい、前の前のおばさんが俺の仕込みとでも。てか、せめてハンドルを左に切れば、前のバイクにはぶつからなかったし、前の前のおばさんともたぶんぶつからなかったとか言いっこなしよ。

てか、いくらなんでもこういうのが度々重なるモンでしょうか。

まるで俺がカレンに行く、かかわりをもつ、関係をもつのを阻むかのような、数々の嫌がらせが降って湧くのは。

育ちが悪いからかしら、お化けだ幽霊だ呪いだ祟りじゃ～は信じちゃいないが、宇宙人はいるったら、いる！

せめてそうしておかないと、以下の話がおかしくなるからね。いえいえ、こっちの話っすよ。立ち聞き、立ち読みお断り。

もはや、なにやら人智を超えたものを邪推しなきゃ、説明ができなくなっちゃう。

例えば、神とか悪魔とかベトナムですとか。え、なんですか、ベトナムですって。二度あることが三度あるなら、四度目だってきつとある、ほら、もうそこまで、しかも今までにないビッ

クウェーブに乗って大天啓がやってきた！

ちょっとお待ちを。うんうん、ふむふむ、えっ～、マジっすか。ヤバイっすよ、それ。今更、そんなこと言われても。てか絶対誰も信じませんよ。う～ん、とりあえずお母さんに聞いてみないと（大天啓を受けている）。

お待た！ じゃあ、これからすっごいこと言うから、覚悟の程はよろしいかしら？

ココではいろいろ端折って、簡単に言うけど、確かたぶん中2のとき、ベトナム戦争のルポを読んで、自分が「生まれつき自称プロ戦場特派員だった」って気付いたとき以来の、すっごいことに天変地異、天地無用、天地が引っくり返るようなことに、気付いてしまったのです。逆立ちしてはっちゃけた！ あぐらをかいて、丸めた頭を両手の指でそれぞれ左右からクルクルして、チンチンチン、チ～んとトンチが出てくる。

ねえねえ、隣の奥さん、実はどうやら俺、「生まれつき自称プロ戦場特派員なんかじゃなかった」みたいなのよ～。

ん？ こう告白すると何やら語弊だ誤解だが生じますね。日本語難しいね。

ねえねえ、隣の奥さん、実はどうやら俺、「生まれつき自称プロ戦場特派員って意味では確かに生まれつき自称プロ戦場特派員」みたいなんだけど、なんというか、それ+アルファがあるとか、ちょっと Condom を付け忘れていたとか、大事なプラスアルファを、早く本当の俺を見て、隣の奥さ～ん！

じゃあ、いくぜ、俺は「生まれつきベトナム戦争の自称プロ戦場特派員だった」んです。「ベトナム戦争の」って余計なセリフ、まるで Condom を付け忘れちゃってたみたい。さる大天啓によるとね。

ガ～ン。じゃあ、私の今までの人生は一体ナンだったの？ 私の人生を、青春を返して！  
おいおい、お前もついでにコクっちゃえよ。

どさくさに紛れて、奥手の一面もついでにコクリま～す。今までずっと密かに、「戦場で殉職した自称プロ戦場特派員の生まれ変わりだ」とまで思ってたけど、厳密には「ベトナム戦争の戦場で殉職した自称プロ戦場特派員の生まれ変わり」だったみたい。

ついでに言うと、ベトナム戦争で殉死した自称プロ戦場特派員の生まれ変わり。生誕二ヶ月前に終わったベトナム戦争のある意味ベトナム帰りだ。ある意味、ベトナム戦争の捕虜でもある。ベトナム戦争はまだ終わっていない、俺が活着している限り、いや、生まれ変わる限り、永遠に。

混乱してきたから、頭冷やしがてらちょっと会話してくる。

「メンゴメンゴ」。

「ねえ、ちょっと、それ、誰に謝ってるの？ ちゃんと謝るなら、ずっと騙されてきた私にこそ、謝って欲しい気分よ」。

誰と誰？

まさか読者諸兄は「だからどうした、それがどうした、そんな大差ないだろ、どうでもいいよ、一切合財全部」とホント他人事だと思ってない！

まさか本当にこの大きな違い、「生まれつき自称プロ戦場特派員」と「生まれつきベトナム戦争の自称プロ戦場特派員」が分からないの？ 馬鹿？ 小卒？ ええ、ええ、どうせ私は馬鹿

よね、お馬鹿さんよね～。

中坊だった俺はベトナム戦争のルポを読んで、「よっしゃ～、俺は生まれつき自称プロ戦場特派員だった」と早とちりしてしまったのだ。早漏～。正しくは「俺は生まれつきベトナム戦争の自称プロ戦場特派員だった」と正しく悟るべきだったのだ、10年前の14歳のときに。遅漏～。

惜しいね、100点満点で言えば、60点くらい、58点かな。少なくとも赤点ではない。なのに、今更追試かよ。

ま、だいたい、道を踏み外したり、道を過ったりするのは中学時代が相場だもんね。男の体なのに、中身は女だったり。本当は男が好きなのに、女を好きになろうとしていたり。まだ中坊ならいざ知らず、大問題は、中坊のときに犯した致命的な間違いにずっと気付かなかったこと、丸10年も、24歳になるまで、ホントついさっきまでホカホカのアホですわ。

一応、馬鹿じゃないから、その丸10年間、何もせずに手をこまねいていたわけではない。今更言うとして嘘っぽいけど、薄々「生まれつき自称プロ戦場特派員」ってのはなんか違うなあという違和感くらい、ちゃんと感じてたんだぜ、それこそ中坊のときから、高坊、大坊、社会人坊、そしてついさっき坊まで一貫してずっ～と変わらぬクオリティ～。

なんていうの、こう、この10年間、つまり14歳から24歳までの間ずっと、靴の中に小石が入り込んだみたいな、喉にささった小骨みたいな、奥歯にモノが挟まったみたいな感じですよ。

そして、社会人デビューと同時に某ジャーナリストの溜まり場みたいなところで丁稚坊を始めて、カレン族の取材に行くことになってから、その違和感は更に日に日に強くなり、なんていうか、こう、全部出し切れていない残尿感みたいな、ケツの穴の拭き残しみみたいな。うっすら違和感が急に実感を伴って身に迫った感じに。

まあ、そんなような生理的なアレへと、どこか他人事だったアレからパワーアップはしてたわけですよ、順調に。まあ、基本的にその違和感を感じるだけで、違和感を追求してみようなんて物好きなことは思いつきもしませんでしたけどね。

しょせん、違和感を追求したところで、大正解は「生まれつきベトナム戦争の自称プロ戦場特派員」と気付くアテはまったくなかったはずだよ～ん。

なんだこの馬鹿の馬鹿による馬鹿丸出しのための言い訳大会は。もうちょっとマシな言い訳をしようよ、そうしよう。

そもそも、仮に中2のときに正しく「俺は生まれつきベトナム戦争の自称プロ戦場特派員だった」と気付いても、中坊なりによくよく考えるまでもなく、ベトナム戦争は遠の昔、自分が産まれる2ヶ月前に終結してるのに、そんな生まれつきベトナム戦争の自称プロ戦場特派員と気付いてもどないせいちゅうねんって悩んだはず。ただでさえ、中学生はオナニーで忙しいっちゅうねん！

さあ、いい加減、逆切れだ、開き直りだ、言い訳だはやめて、正直になろうよ。

【ココから以下の更なるグダグダ感は、インタビュー形式で一旦まとめる予定は未定】

仮で強引にまとめておくと、こんな難しい人生問題を、ちょっとくらい間違っただけの俺を攻めるのはいくらなんでもかわいそうだし、たとえ中坊の俺が正しく気付いたところでそれはそれで酷だったし、どうにもできなかったってことよ。

10年後の社会人坊の俺（24歳）だってまさに今、そんなことに気付かされても、ただただ困るしかない。かろうじて年の功でこういうときなんて言えればいいかだけは知っている。身も蓋もない言い方だけど、アチャ～としか言えないもん。ホント、アチャ～だよ、アチャ～。

思考停止！

コレってまるで、小さい頃、隣のお姉ちゃんが夜な夜な毎回毎回違う男を連れ込んでセックスするたび、律儀にせっせと覗いては、「早く大きくなって、セックスして～」とアッチを大きくしながら思っていましたとさ。

さあ、ようやくコッチも大きくなりました、そろそろセックスでもするかと思うが、セックスしたい相手が見つからない。誤解しないでセックスの相手が見つからないと言ってるわけではないから、あくまでセックスしたい相手が見つからないの。セックスする相手は誰でもいいわけではない。安売りはしないわよ。童貞の頑ななこだわりで。

まだ思考停止中。

そんなとき、たまたま知遇を得たヤリ手じじいどもに、「セックスしたい相手もセックス相手もないんですけどね」、「ふん、本当はどうせセックスしたいだけだろ、意地張るな、誰にでも簡単にヤラせるという噂のサセ子を紹介してやるから」と。まあ、セックスしたいのは事実だし、心に決めた相手がいるわけでもないのも事実。まあ、ここらでそろそろ手を打つか。とりあえず練習がてらセックスしまくって、超絶テクニシャンになってから本命を探し出して、口説けまくればいい。

そうと決まれば、ノコノコと遠くに住むサセ子のところまで、はるばるセックスしに行ったはいいが、なぜかヤリマンのサセ子となかなかセックスできないどころか、会うことすらできない日々をむなしく過ごすハメに。ハメはハメでもそっちのハメ。

ええ、まだ思考停止中よ。

結果的に待ちに待った甲斐があり、ようやく後もう少しで噂のサセ子と会えそうになる。そんなサセ子に至る一途に一本道、サセ子一歩手前で突然心と気付いちゃったわけ、我に返ったわけよ。まさにさあこれから入れるって前にあ、出ちゃったって感じで。散々いやがらせされてきても気付かなかったけど、いや小さな嫌がらせの積み重ね、死骸の山も今日の交通事故でようやく氷山の一角すら見えていなかった全貌が一気に明らかに。

無意識では気付いていたから、カレンに近づかないようにしてたのに、うちの意識が馬鹿でねえ～、困ったもんよ、ホントあの子には。

「ココはどこ？ 私は誰？ 私はたわし。俺は一体何をしようとしていたんだ。セックスしたかった運命の相手は、あの当時の隣のお姉ちゃんだったんだぜ。そう、セックスがしたかったんじゃない、正しくは隣のお姉ちゃんとセックスがしたかったんだ。何が悲しくて見知らぬ遠くのサセ子なんか童貞捧げなきゃいけない。そんなもんなら、別にセックスしたかねえやい。でも、今や隣のお姉ちゃんももう既に、隣のおばちゃんになっちゃってるし、一体どうしろというん



だい。タイムマシーンでもなけりゃ、当時の隣のお姉さんとは会えやしない」と思いながらも、  
どうすることもできずアチャ～みたいな。でもタイムマシーンかあ、アリっちゃ、アリアリだな  
。

思考停止解除！

ね、さっきの話と一緒にしょ、アチャ～の部分とか。例えれば例えるほど、遠くに行ってる気が  
しませんか？ ね、でしょ～。

いつまでも絶賛思考停止していても仕方ないから、現場お百度参り感覚で、イチから考えよう  
。

そっかあ～、俺は生まれつきベトナム戦争の自称プロ戦場特派員だったのか、本当は。この1  
0年、ずっと単なる生まれつき自称プロ戦場特派員とまるで疑うことなく信じ切って（違和感  
はあったけど、特にカレン後は特に）、ただただ突っ走ってきた。それがこの土壇場に来て、今  
更「ごめんごめん、アレ、ちょっと間違ってたわ。ちょっとなしの方向で処理しといてよ。メン  
ゴメンゴ、今度焼肉でも奢るから」なんて、そりゃないぜ→あちゃ～→思考停止。

でもまあ、よくよく考えるまでもなく、「生まれつき自称プロ戦場特派員」でも、「生まれつ  
きベトナム戦争の自称プロ戦場特派員」でも、大して差し支えはなくねえ？ だって、ぶっち  
ゃけ、今のところ実害ゼロだもん。

ん～、さすがに、んなことねえか。ごめん、言い過ぎた。まあ、今までずっと、生まれつき自  
称プロ戦場特派員として生まれ落ちたと信じて、24年間と半年ほど。実際、気付いたのは中2  
だから、やはり10年か。

ちょうど10年前から道をちょっと間違えたわけだけど、某ジャーナリストのたまり場に足を  
踏み入れてちょうど丸1年、なぜかその場の流れとノリでカレンに初取材へ行くことになって、  
その取材の準備や実際本当にタイくんだりまで来て、もうすぐ二ヶ月になろうかという実費と時  
間と労力が実害と言え、実害だけど、実際にタイに来て二ヶ月だけまだ何にもしていないと  
一緒だから。一風変わった旅行みたいなもん。

逆に言うと、これは結果としてよかったのでは。そのおかげで、たった10年の回り道で正し  
い道に気付いて、軌道修正できまくり。しかもモヤモヤしていた違和感がキレイさっぱりなくな  
ったんだもの。ちょっとお徳感があるくらい。

実感はなんかずっと慢性の便秘気味でモヤモヤしてたのが、ストーンとすっきりしてよかった  
くらい。

そうか、いや～、これですべて、おおむねすべて、ようやく腑に落ちたよ。ザ・不幸中の幸い  
！

今はとにかく、まるで生まれ変わったように、清々しい。

10年間ずっと靴に入り込んでいた小石がようやく取れたというか、10年間ずっと喉にささ  
っていた小骨がようやく取れたというか、10年間ずっと奥歯に挟まっていたモノがようやく取  
れたというか、10年ぶりに残尿感がようやくキレイサッパリチンコの先からなくなったとい  
うか、10年ぶりに拭き残しがようやくキレイサッパリケツの穴からなくなったというか、ま  
とめると10年モノの宿便が取れた感じで。尾籠な例えばっかですんません。

今までずっとちょっと間違ってたけど、正しい道に気付き、今、ようやく本当の運命の戦場に気付いた。そのおかげというか、謝礼というか、補償で、少なくとも目の前のカレンに行かずに済みそうな流れだしね、シッ～。

うるさい、黙れ！ そんじょそこらのアバズレじゃあるまいし、「生まれつきベトナム戦争の自称プロ戦場特派員」って気付いたあかつきのこのめでてえ席で、ノコノコとベトナム戦争とまるで関係のないカレンの難民キャンプなんかに向かうなんて、不貞行為はできやしません、しちやいけません。

だって、俺はもうこの先ずっと、単なる運命の戦場をまだ知らぬ「生まれつき自称プロ戦場ジャーナリスト」なんかのままじゃられないんだから。

さっさと大声で言うけど、「生まれつきベトナム戦争の自称プロ戦場特派員」と気付いたのが俺の運命の尽きだとしても、戦場の大本命は当然、やっぱベトナム戦争の戦場、略してベトナムちゃん（もうとっくに死んでる戦場じゃんとか言いっこなしだぜ）。

今までは単なる「生まれつき自称プロ戦場特派員」だと勘違いしてたから、いろいろ許されてきたんだ。一応カレン族の従軍取材と難民キャンプを目指していたけど、もうそんな偽りの、まるで運命でも何でもない、代用戦場は関係ない（ココで難民キャンプが戦場かどうかの議論をする気はない、紙幅の都合上ね）。

それにしても、ホントよくご無事でしたよ、そんなおぼこ娘状態で。実際、後ちょっとで、カレンの難民キャンプに行っちゃうところだったし。

もはやこれは童貞がソープの近くまで童貞捨てに来て、俺はセックスがしたかったんじゃない、運命の女とセックスしたかったんだと本当の運命の女に気付いたようなもんに匹敵する。まさにたまたま今まで超運よく一発せずに済んだゆえに、危機一髪で貞操を死守！

運命の戦場じゃないどころか、誰にでも簡単に取材させると日本のおじさん連中にも噂されるようなソープ戦場というか、玄人みたいに金取るわけじゃないから、素人のサセ子戦場にあやうく男の大事な戦場童貞を捧げるところでしたよ。

幸い、サセ子に会うこともできない不運も実力の内で、キレイな体、戦場童貞（24歳）のまま、今後も運命の戦場に挑めるなんて、なんたる果報者。いやいやいや～、ホント三国一の幸せモノだな～、ぼかあ、さすが俺！

今後は大事を控えた身、立場をわきまえ、自重しなきゃな。ちょっと待てよ。てか、今までいつ戦場に行ってもおかしくない無防備な状態で24年間も生きてきた。なのに、よくもまあ、キレイな体のまま、戦場童貞でご無事にいられたもんだ。果たしてこれは偶然だろうか。

そう言った観点から、来きしかた、人生を振り返ってみると、まるでカレンだ他の戦場だに大事な戦場童貞を捧げないためとしか思えない、信じられない、ありえないような出来事の数々が思い起こされる。

最初は軽い違和感を通じて、「生まれつき自称プロ戦場特派員」じゃなくて、本当は「生まれつきベトナム戦争の自称プロ戦場特派員」だよとずっと気付かせようとしていたが、俺はその違和感に気付くのに精一杯。

そして、間違いに気付かぬまま、ついに某ジャーナリストのたまり場に足を踏み入れ、初取材

はカレンにアレよコレよおよよの間に決まってる始末。

そして本当にカレン族取材のため、タイくんだりまで来ちゃった日からは、早とちりの勘違い中坊のまま大きくなった俺を戦場童貞のまま、なんとか運命の戦場に気付かせ、運命の戦場のために貞操を守らせんがための数々の散々な目があったとしか思えない。

そうじゃなきゃ、これまでの取材成果ゼロに説明がつかないし、納得もいかない。これらはすべて、暗にカレンには絶対行くな、戦場童貞を捧げる戦場はほかにちゃんというだろってことですよ。

誰が？ まさに天の差配。神様？ 仏様？ 俺様？ 俺様のひとりよがり説だと夢がないから、ココは一つでっかく、そうだな、宇宙でもいっとく？

じゃあ、ええ、宇宙です、宇宙ですとも。え、聞こえない？ う・ちゅ・う！

これもあれも、あ、それも全部ちょうだいな、ずっと俺に本当は「生まれつきベトナム戦争の自称プロ戦場特派員」と正しく気付かせて、戦場童貞をベトナム戦争の戦場に捧げさせるため（だから、ベトナム戦争とっくの昔に終わってるとか言いつこなし、後でこの問題に取り組むから、約束するよ、はいはい、約束約束）に宇宙が、宇宙の意志とやらが働いていたのだ。

そう考えるとあら、不思議、すべてが言い訳できるというか、辻褄が合うというか、俺のせいじゃなくなる、俺、一コも悪くない、インディアンと俺、嘘つかない、要はコレが言いたいのだ。

メソトの三大事件、交通事故事件、やらせ迷子疑惑事件、走行中にバイクの鍵を落とす事件はもちろん宇宙の意志であることは言わずもがな、てか宇宙の意志じゃなきゃ納得いかんありえない数々だろ、メソトに来る前のそりゃもうひどい有様のありえない数々だって、宇宙の意志の一言で簡単に解決する、解決してみせる！

ラチャブリの病院襲撃に遅刻しちゃったのも宇宙の意志、手の込んだ美人局にひっかかったのも宇宙の意志、やる気のない野良犬に噛まれたのも宇宙の意志、古本屋になろうとしたのも宇宙の意志、マックに入り浸って日長一日読書していたのも宇宙の意志、内務省でたらい回しの拳句の果てにお前は何かしたいという紙切れを渡されたのも宇宙の意志、内務省で取材パスが貰えず、二進も三進もいかなかったのも宇宙の意志、チェンマイからバンコクに戻ってきたら年末年始休み突入したのも宇宙の意志、チェンマイでうんち漏らしたのも宇宙の意志、バンコクに着くや否やさっそく体調崩したのも宇宙の意志。

タイに来てからずっと、なんか最近ついてないなあと思っていたのはすべて、この日、この瞬間、俺がベトナムという運命の戦場に気付くために綿密に仕組まれたものだったのだ。逆に生まれてこの方ずっと、運がつきまくっていたのだらう。

もしも歯車が一個でも違えば、例えばチェンマイでうんこを漏らしていなければ、今頃どこで何をしてたのやら。もしかしたら、なにくそ〜と思わずにすっきり帰国していたかも。

そしたら、あ〜た、きっと俺は一生、永遠に自分が本当は「生まれつきベトナム戦争の自称プロ戦場特派員」と気付くこともなく、運命の戦場がベトナム戦争の戦場と知らぬまま、「生まれつき自称プロ戦場特派員」と間違っただけで、ふん、運命の戦場なんてあるわけねえだろ、でも、なんかおかしいなあって常に違和感を抱えながら、カレンみたいな運命じゃない戦場ばか

り渡り歩きながら、やっぱりココの戦場もなんか違ったなあと思いながら、一生戦場を彷徨って生きていくハメになるところだったのよ、ちょっとちゃんと聞いている、隣の奥さ〜ん。

ホントウンコ漏らしてよかった。うんこ漏らしたのにも大きな意味はあったわけだし、てかうんこ漏らしたのは俺じゃなくて、宇宙の意志だから、宇宙の意志が嫌がる俺のアナルを無理矢理直接手で...や〜い、うんこ漏らしの宇宙の意志のえんがちょ〜。

そっかそっか、これもあれもすべて、ずっと俺にそう気付かせるために、特にタイに来てからはフル回転で、ずっと宇宙の意志ががんばって働いていてくれたのかあ。いつもご苦労様。いやいや、待てよ、そういえば、タイに来る前だってアレじゃな〜い。

カレンを紹介したヤリ手じじい集団を取材しようとしたのも宇宙の意志。取材のはずが丁稚になったのも宇宙の意志（決して丁稚になりにはいったわけじゃないぜ）。

某ジャーナリストのたまり場を知ったのは、たまたま新聞でビデオジャーナリストってのを知ったからだけど、これも宇宙の意志。ビデオジャーナリストって単語にひっかかったのも、運命の戦場に導くための壮大なドラマの序章に過ぎない。

そうか、タイに来てからだけでなく、タイに来る前のこれもあれもすべて、ずっと俺にそう気付かせるために宇宙の意志がせっせとまじめにコツコツ働いていたのか。

もっともっと、こじつけようと思えばいくらでもこじつけられるけど、この辺で勘弁しといてやろうかと思ったが、やめられないとまらない宇宙の意志。合言葉は宇宙の意志！

マジでドンドン腑に落ちるぞ。いや〜、さすが自演自作とか言わないで。某ジャーナリストのたまり場に入るまで、たぶん無意識下では、運命の戦場はベトナム戦争の戦場だと知っていたから、あえて他の戦場を知ろうともしなかったのも、そう、もちろん宇宙の意志。

某ジャーナリストのたまり場に入って、どこの戦場に行きたいか聞かれる羽目になっても、そもそも俺が自分でもよく分からない理由で、どっかに書いた気もするけど、ヨーロッパ、アフリカ大陸、南北アメリカ大陸は遠い、そもそも白豚じゃなくてシロンボは嫌いだし、クロンボはアレだし、同じアジアでもインドより向こう、中東とかは遠すぎてピンと来ない。逆に東アジア、韓国、北朝鮮、中国、台湾なんかは近すぎてこれまたピンと来ないんだな、コレが。フィリピンやインドネシアは島国根性がちょっと敬遠。

となると残るは東南アジアじゃなきゃいやだ、しかも厳密にはメコン川流域のインドシナ半島にある国々じゃなきゃいやだと言ってきたが宇宙の意志、こんなところにもみ〜つけた！

ベトナム戦争の戦場に似たようなところなら今もイラクやアフガニスタンにあるが、俺にはパチモノ、代用品にしかみえぬ、今一度アメリカがベトナムに、ありそでなさそでやっぱありかねないかしらん、不謹慎は100も承知のクズだから。

「俺はベトナム戦争の時の自称プロ戦場特派員になりたかった」、イラクでもいいのでは？「だから遠いじゃん、さっきもどっかにも書いたけど、同じアジアでも中東は遠すぎてピンと来ない。逆に東アジア、韓国、北朝鮮、中国なんかは近すぎてこれまたピンと来ないんだな、コレが。まあ、アメリカさんがまた東南アジアで戦争をおっぱじめるまで見だな」。

ってやっぱアンタ、自称プロ戦場特派員になる気なんてサラサラないじゃん！

じゃあ、あれかい、おぬしは「白馬の王子様を待ち続ける中年女性にホントは恋する気なんて

ないんだろう」と言えるかい。

運命の戦場に出会えなければ、一生戦場童貞のままで死んでもいい、それもまた最新鋭の自称プロ戦場特派員像じゃないかな。

まあ、宇宙の意志もこんな回りくどい、面倒なことしなくて済むように、中2の時点で最初からちゃんと「生まれつきベトナム戦争の自称プロ戦場特派員」って気付かせておけて話ですが。

せめてこんな手の込んだ交通事故まで起こさないで済むように、もっと簡単に教えてくれれば、それこそ日本の自宅でゴロゴロ、ポテチ食いながら漫画読んでいるときとかに、「ちょっといいですか？」と。きっとヒマだから相手にしてやったのに、「あ、食べます？」ってポテチのひとつやふたつくらいなら、形だけは勧めただろうし。

そうしておきさえすれば、何も好き好んで、中学で道を微妙に踏み外した瞬間から、高校、大学、自称プロ戦場特派員とある意味、エスカレーター式に、長い目で徐々に間違いを広げ、突然いきなり一気に歴史修正をかけなくても済んだのにね。

でも、なかなか気付かないから、仕方なくカレンまで行かせるって強行手段に？ あ〜ん、その程度の力なのか、宇宙の意志ってもんはよう？ まとめてかかってこいや！

ま、宇宙の意志の肩持つわけじゃないですが、こういう複雑かつ面倒な手順を踏んで、尚且つタイはメソトくんだりの難民キャンプ近くまで来なきゃ、気付かない設定だったんですよ、宇宙の意志が勝手に…。

というわけで、そろそろ、完全に話の収束がうまい具合に收拾がつきすぎてきたので、他にも腑に落ちないところがあれば、とにかく今まで、そして今後の都合悪いこと、辻褄が合わないところとかはすべて、宇宙の意志ってことで各々適当に処理しといて。

とか言いつつ、最後にもう一声だけ、声を大にして蛇足をば！

宇宙の意志のせいで今までの取材とかが全部うまくいかなかったし、そしてそれはこれからも変わらずだろう。だから俺は悪くない、逆に俺は被害者でかわいそうとまで言ってるんです、こっそり。さりげなく。サラリと。

あ、ここまで来て今更ですが、皆さん、もしかして宇宙の意志とかそれ系はお嫌いなタイプ？

超奇遇〜、俺も嫌い系だから安心してちょ。大丈夫大丈夫、最初だけ最初だけ。ほら、だって俺の宇宙はアポロ13号タイプだから。つまりぶっちゃけ、本当は宇宙なんか行ってないから、演技演技、あくまでイッたフリっすよ、フ〜リ〜。

もし仮に万が一、なんかもう諸々うまく説明できないし、クソ面倒臭くなってきたから、宇宙の意志方面に逃げ込んだのだとしても、行きっぱなしの逃げっぱなしにはならない、ちょっとだけちょっとだけ先っぽだけ先っぽだけ。かならず帰ってくる、ひょっこりと。じゃあ、そういうことで、もう一軒、またちょっくらひっかけてきます。

そっかそっか、とどのつまり宇宙の意志こと、宇宙人は俺の味方だったのか。宇宙人は俺に、お手頃なだけで一切興味もない知れば知るほどどうでもよくなる戦場なんかで、お手軽に運命の戦場に捧げるべき戦場童貞をポイ捨てするようなみっともない浮気なんかすんな、そんなんなら

一生戦場童貞でもいいじゃないか、そんな決死の覚悟で運命の戦場に貞操を誓って、純愛を貫けと言っていたんだね。

だって、俺は誇り高き「生まれつきベトナム戦争の自称プロ戦場特派員」なんだから。

サセ子戦場やソープ戦場なんかでチャッチャッと致すより、純愛を貫く方が大変なのは言わずもがなな覚悟の上。戦場童貞もセックス童貞も同じようなもんだ。たぶん異母兄弟あたりと見たね。

そして、大事なことは、過程はどうであれ、例のアレ、宇宙の意志とやらが便宜的な比喻であれ、俺に幸あれ。何はともあれ、アレは厳然たる事実とし、歴史上の史実のように、ついに俺は出生の秘密を正しく、「生まれつき自称プロ戦場特派員」じゃなくて、実は双子で、兄さんがいたなんて的存在「生まれつきベトナム戦争の自称プロ戦場特派員」であったことを知り、運命の戦場こと、ベトナム戦争の戦場に気付くことに成功した（2012年の俺。はい、そこ、土壇場で取ってつけた言い訳とか言わない。火事場の馬鹿力って奴ですよ。別にカレンの難民キャンプに行きたくないから、咄嗟に急ごしらえでこさえたい言い訳なんかじゃない。その証拠に、少なくともこの10年間感じ続けた違和感はずっと消えて、心穏やかに運命の戦場、ベトナム戦争の戦場と出会うまで戦場童貞を続けるという定め、心静かに運命を受け入れる）。

そうだと思ってたよ、さすが俺。ずいぶん、軽く10年程、遠回りしたけど、気付いただけでもめっけもん。

よ～し、そういうことなら、胸を張って、堂々と言ってやるぜ、カレンなんて、誰にでも簡単に取材させるような戦場が最初の戦場であってたまるか、誰が取材してやるもんか。もう少しで会って、取材しちやいそうになっちゃったけど。危機一髪だったよ、危ない危ない。ば～か、お前の母ちゃん、出べそ～。

そもそもカレンなんて、端から興味ねえっていうか、ひとめはまだ見てないから、一聞きした瞬間から大嫌いだったんだい。

ふん、もう諦めてビルマ族になっちゃえよ。お疲れさん、60年間。ま、大は小を兼ねるって日本では言うから。併合されちゃえば～。

それともイギリスにまた形だけの表面上だけ助けて貰え。ま、絶対イギリスだはもう助けないだろうけど、昔みたいに大っぴらに植民地にできないから。

某ジャーナリストのたまり場に足を踏み入れてしばらくして、トントン拍子に「おい、コイツ、戦場童貞だって」と戦場100斬りのおっさんたちがワラワラ集まり、ワイワイガヤガヤ「しかも戦場童貞を捨てたい戦場もないし、どんな戦場があるかもよく分からないんだってよ」、「あはっ。じゃあ、カレンでいいんじゃないか」って感じ。

カレンを調べて調べて、知れば知るほど、後悔、悔いが残り始め！

タイくんだりに来てからはもう完全に乗り気ゼロ。ノリ悪～い。いきなり病は気からを発症したのもむべなるかな。

ぶっちゃけ、たぶんカレン族が決まった瞬間から、自分でも薄々気づいてはいたんよ、戦場童貞の直感で「カレンはなんか違う、そんなところ行っちゃいけません」って。穢れなき戦場童貞らしい純情レーダーみたいなもんが作動し、まるで過保護なお母さんが出動したみたいに。

このくだりを、信者と神父だとアレだから、患者と医者 of 寸劇に例えると、こうかな。

「はい、次の方」

「あ、はい、ゴホゴホ。あの～、先生、私、ずっと生まれつき自称プロ戦場特派員だと思っていたんですが、本当は生まれつきベトナム戦争の自称プロ戦場特派員だったんです。ああ、道理で、行きたい戦場が一個もなかったんだ、俺の運命の戦場はベトナム戦争の戦場だけだから」

「...あの～、うち外科ですけど？」

「うるせえ、このヤブ医者め、外科だ内科だ精神科だと患者には好き勝手ゴチャゴチャ言うくせに、看護婦だけは何科だろうと構わずに手を出しやがって！ 看護婦も看護婦だ、なにが、『せんせ、夜のお注射してくださいな』だ！ 黙って患者様の話を聞きやがれ。

とまあ、そんなおぼこな戦場童貞に戦場キラーのおじさまたちがよってたかって、「戦場童貞が贅沢言うな。どうせ戦場童貞捨てるためだけの戦場なんだから、どこの戦場だっていいだろ。まあ、誰でも簡単に行ける戦場を紹介してやっから」って女げんみたいに、やり手じじいみたいなノリでカレンを勧めてくるから、特に断る理由もないから断るに断れず、いまいちピンと来ないまま、カレンにいく準備を粛々と進めたわけですが、やっぱりずっと違和感があって、「本当にこの戦場でいいのかなあ」って、カマトトぶる気がないとは言わないけど、でも、とりあえず早く一度は戦場に行っておきたいという気持ちはあったはずなのに、カレンも一応戦場なのに、なんでだろう、おかしいなあって」。

「...はあ、じゃあ、他に症状は？」

「最初の戦場はこの戦場と心に決めた戦場もなかったというか、自然とそういう運命の戦場がいつか颯爽と現れると夢見ていたのかもね。奪って逃げて！ そういうことはまだ早い、ずっと先の話だってカマトトぶってたの。例のたまり場に顔を出すまでは、最初の戦場はどこにしようなんて具体的に考えたこともなかった。まあね、行きたい戦場がなければ、別に最初の戦場なんて別にどこでもいいっちゃ、いいはずなんだけど。そこはそれ、戦場童貞のこだわりって言うか、やっぱり最初の戦場くらいはせめて好きな戦場がいいなって。その後でいいかな、節操なくいろんな戦場にいきまくるのは。

きっと無意識では、生まれつきベトナム戦争の自称プロ戦場特派員で、運命の戦場はベトナム戦争時の戦場って知ってたから、自然と体が戦場童貞を守ろうとしていたんだろうな。

当たり前じゃない、初めての戦場くらい自分で、自分のペースで決めたいに決まっているじゃない、本当は。純でねんねの戦場童貞だから。「戦場ならどこでもいいわ、あ～ん、もう好きにして」という自分を大事にしない投げやりな戦場サセ子的考えをしないのは、戦場童貞の貞操観念です。戦場童貞の憧れのひとつとして、押さえておきたいこと、「初めてなの、やさしくしてね。電気を消して」って恥じらいやつつしみやたしなみは常に財布のコンドームみたいに必ず持ってなきゃね。マナー、礼儀作法です。

でも、熟練の百戦錬磨の手練●●の例のたまり場のやり戦場のおじさまたちに囲まれて、「いつになったら行きたい戦場が決まるんだ。何を迷っているんだ、本当は意中の戦場があるのか、このこの隅に置けないねえ」、「いえ、ホント、そんな戦場はないんで。戦場には早く行ってみたいんですけど。まあ、こういうのはご縁というか、タイミングかなあって」、「そんな甘っち

よろいことばっか言ってるって一生戦場童貞だぞ」なんて類の会話をしているうちに、まるで段々催眠にかかったみたいに、意に反して、早く戦場童貞を捨てなきゃいけないって気持ちが高まってきた。毎晩毎晩パラパラと雑誌や本をめくって、「いい戦場いないかしら」って探したのにピンとくる戦場がひとつもなく、いつまで経ってもなかなか運命の戦場は現れないどころか、いいなと思える戦場すら現れない始末。

そんなある日のこと、プツンして「じゃあ、もういい。戦場ならどこでもいいもん、好きにして、メチャクチャにして」ってヤケのヤンパチになって、「もうこうなったら、好きでもない戦場に行って、思いっきり汚れてやるんだ」って思った頃にちょうど、まるでそうなるって最初から分かっている、てぐすね引いて待っていたかのようなおじさまたちによってたかって、誰でもいける戦場カレンを紹介されちゃって、その場の勢いとノリでじゃあ、そのカレンとやらの戦場に行きます、みたいなね。でも、その瞬間にも「大それた、絶対にしっちゃいけないことをしているんじゃない」という後ろ髪ひかれる気持ちが、ああ、もうなんか頭がボウッ~としてきちゃった」

「あ、それは風邪ですね、お薬出しときますから、お大事に〜」

「あ、じゃあ、薬はジェネリックでえ〜」

ご覧の通り、かように医者のお墨付きが出ましたので、つまり、とにかく、あれよこれよそこよそこの間に、カレン族との見合いが決まった瞬間から、いまいち乗り気がしなかったのもむべなるかなってお粗末なお話の締めはどこだ〜？

じゃあ、さっきから必死になんでそんな話ばっか繰り返しているんだって聞いて！ あのね、別にカレンにホの字で、好きで好きでもう辛抱たまらんから追いかけていたわけじゃないって、運命の戦場、ベトナムちゃんに必死に浮気しかけた弁解をしてんの。

身も心も一糸乱れずカレンなんかにはそよともなびなかったよ。純潔は守ったよ。だから、今だって身も心もまっさらな、どこに出しても恥ずかしくない戦場童貞ぶりだよって猛アピールしてんの。

まさか運命の戦場があると知らなかったゆえ、ある意味ちょっと体の浮気をしかけちゃったというか、いや、取材までは行ってないから、体の浮気相手（予定）にもうちょっとで会っちゃうところだったけど。

結果オーライ、土壇場で大事なものは守った。

それにしても、全然知らなかったけど、さすがに今日はマジで貞操の危機一髪だったみたいっすね。神様仏様宇宙の意志様、軽い交通事故をあんがとさん。

後、こんな類の戦場童貞の貞操の危機を何度も知らぬうちに助けてくれて改めて本当にありがとうございます。でも、水臭いぞ。

さあ、いつまでもおんぶにだっこじゃないいけないから、後は自分ひとりでできたになるように、ちょっくらケジメだけはつけさせて貰いまっせ。

その関係で、ちょいとしばらく今時擬人化もあれですが逆にナウいみたいな、ベトナムは、あの、だから、その、うまく言えないんだけど、あの〜、だから〜、その〜、ベトナムちゃんって、キャッ、言っちゃった、ベ・ト・ナ・ムちゃ〜ん、う〜ん、いいねえ〜。



で、後さあ、ホントは呼びたかもないけど、カレンはカレンちゃん。ふん、なにが、ちゃんだ。ブスがかわいこぶって、気取ってんじゃねえよ。ベトナムちゃんとは比べれば月とすっぽんなのは言わずもがな。比べるまでもなく、カレンちゃんはすっごいス〜ブ〜。

後、取材はセックス、やるなどと言い換えてまっせ。

ええよええよ、ええ調子だよ。よし、このまま勢いだけで何も考えずに、いけるとこまで行ってやろうじゃないかい。もうしばしの間だけ、黙ってそっと見守っておくんなまし。うん、そうしようよ、きっと深い考えがあつてのことだろうから。

もっとぶっちゃけると、カレンちゃんってば、ブスババアのくせに、いやブスババアゆえに、超おさせ戦場（60歳）。そんな戦場界じゃつとに有名な、クソブスで誰にでも簡単にパカパカ股開く、年季の入ったガバガバユルユルヤリマンのくせに、俺にだけさせないなんて生意気にも程がある。スタローンなんかにはハメ撮り映画まで撮らせたくせに。

別にやりたかねえけどね、尻軽アバズレ年増戦場なんかと。こんなの全然、俺だけの運命の戦場なんかじゃないやい。

まあ、俺がいろんな浮名を流して、戦場経験をたくさん積んで、戦場の酸いも甘いも知り尽くしたもう汚れちゃった頃合で、一夜のお遊び相手程度でならカレンちゃんと致すのも話の種にアレだが、キレイな体のままのまっさらの戦場童貞を捧げる初めての戦場には絶対ふさわしくない。

ただ誤解しないでおくれ。別に戦場童貞特有の潔癖症で、運命の戦場も俺が初めての戦場特派員じゃなきゃいけないって言ってんじゃないんだぜ。戦場童貞には処女戦場てのにこだわるようなケツの穴の小さい男じゃねえからよ、別に運命の戦場の過去なんて気にしないさ。逆にちょっと遊んでいるくらいの小慣れた戦場の方がいいくらいだ。

だって、コッチが戦場童貞で、アッチが戦場特派員処女だと、「アレ、ココ、だっけ?」、「違う、かな。もっと下だと思う」、「え、あ、下ね。下ってどっちだっけ、え〜とお箸を持つ方の手が...あっ!」、「え、どうしたの?」、「...ごめん」みたいな〜。

そもそも処女戦場の一番乗り競争なんてくだらないことに興味ない。

なんたって、俺はでっけえ大物の戦場童貞だからね。まあ、でも、あまりにひどすぎる過去をお持ちの戦場ちゃんだとさすがにちょっとアレかもしれないけど...

いくら男の中の男たる俺でもさすがに、あ〜た、いくらなんでもブスな上にババアサセ子が初体験の相手じゃ、完全に萎えますよ。モチベーションなんて小洒落れたもんがあがるはずないのは当たり前だのクラッカー。ナエナエでヤル気ゼロ宣言!

でも、まあ、こういう男女間だ、男戦場間だってことは理屈じゃないから、赤の他人が横からヤイヤイとやかかく口出しすることじゃないので、本人自らゴチャゴチャ言い続けます。ああ、もうイヤだ、心底イヤだ、面倒臭い。

いいですか、もし仮に初めての戦場が若くてかわいい処女戦場相手だったとしても、ああ、クソ面倒臭えなあ、早く帰ってえという思いに変わりなし、一点の曇りなし。

ええ、ええ、どうせ俺は無職体質の社会不適合者、社会のクズですよ〜だ。使用人用語で言や、集団行動を乱す協調性ゼロのわがままおこちゃま。群れるのも馴れ合うのも大嫌い、思いやり

ゆずりあい、なんだそれ？ そこのけそこのけ、はぐれ一匹狂い狼が好き勝手、いつもマックで本読んでます、宇宙の意思のせいでね。

ええ、確かにこの話は今言うことじゃないですが、さりげなくどさくさに紛れて言うにはふさわしき事柄だろ。

どうせ嫌々でもやるなら、せめて運命の戦場じゃなきゃ嘘だぜ。真昼間からシラフで、夢のひとつやふたつ見れなきゃ人間やめますか、戦場やめますか、どっちにしる終わりだぜ。

いい戦場行って、いい戦場取材する。それこそが、男のステータス。なにが、いい車乗って、いい女抱いて、田園調布に家が建つ、だ、死ね、バカ、虫カスどもめ！

やっぱよう、男には高嶺の花が似合うよ、高嶺の大輪の花が宇宙一似合う男になりたい。そんなたいそれた俺にふさわしいのは、気高く、決して征服できない、難攻不落なベトナムちゃん。俺が産まれる前に終わっているっていうくらい身持ちが固く、鉄壁の守りぶりで攻め甲斐がありません

だからこそ、俺はベトナムちゃん一筋、牛井...ううん、なんでもない。

たとえ、ベトナムちゃんとうまくいかないからって、もう二度と他の戦場なんかとはお見合いすらしない。そこらじゅうにゴロゴロしているブス戦場に色目使ってちょっかい出したって、結局何もしないのは目に見えている。

だから、何度目かのごめんよ、まだ見ぬカレンちゃん。

お詫び代わりに誓うよ。俺は運命の戦場こと、ベトナムちゃんに会うまで、一生戦場童貞でも構わない。

だって知るべくして運命の戦場こと、高嶺の花こと、大本命に気付いたんだろ。じゃあ、ベトナム戦争とこのまま一生添い遂げなきゃ、嘘だぜ。

もう生まれ変わったんだ、俺は。運命の戦場を知ったからには半端できねえ。そう、もう昔の俺みたいにフラフラしない。好きな人がみつからないからって、ヤケになってもう誰でもいいみたいなのはしない。もう就職活動だカレンだで懲り懲りだ。決してもう二度と好きでもない戦場なんかには見向きもしない、鼻もひっかけない、どんなに切羽詰っていても。

せっかく無意識とは言え、あ、そうそう、宇宙の意志様のおかげで、キレイな体、戦場童貞(24歳)を貰いたんだから、カッコいい言葉で言うなら、ギリギリ身も心も戦場童貞、イエーイ、見てる見てる、初心貫徹！ やっぱ初めては運命の戦場じゃなきゃ嘘でしょ。やっぱ好きじゃない人に男の大事なものをあげられない。最初の相手、ベトナムの戦場に捧げるって決めたってっぺ。

まあ、カレンよりも断然手強い相手になったわけだけど、大丈夫、今度は運命の相手だから。もう迷わない。叶わない恋でも報われない恋でもいい恋でもいいの。

ただひとつ大問題というか、のしかかる運命の戦場がもうこの世にないのがたまに傷だけど。ベトナム戦争は死んでるというか既に大過去のこと、ようやく最近知った運命の戦場が故人だったなんて。

運命のお姫様がとっくの大昔に死んじゃった人なのに、結ばれろって無理難題じゃないか。ちんこが2万キロメートルあっても足りねえ、届かねえよ。

もう死んでるベトナムちゃんに愛をささやくなんて、死体愛好者みたいな展開になってきたけど、なに、この流れ？ どうすんだ？

そんなの知るか、会えるか会えないかはとりあえず今じゃなく、先の未来話。そして、大事なのは未来じゃない、今だ、この瞬間だ！ 困るのは未来の自分だから別に全然構やしねえよ。なんのその、運命の相手がもう死んでるくらい。そこさえ、ギュッと目をつぶっちゃえば、パーフェクト。きっと未来の俺がどうにかしてくれるはず。

おっと、お目を閉じるにはまだ早いぜ、もう暫し道草にお付き合いをば。

しかし、タイムマシンでもないかぎり、隣の高校生のころのネエちゃんとヤルのも、あのベトナム戦争を取材するのも無理だ。二次元萌えか！

絶対安全地帯から産まれてくる時代を間違えたと抜かす、本当なら世が世なら戦国時代や幕末

に憧れる馬鹿男か！ 全部正解。

バカな若者が戦国時代の武士や幕末の志士に憧れるように、ベトナム戦争時の戦場特派員に憧れた。それはタイムマシンでもなければ決して果たせぬ夢。どうしよう、ああでもこうでもない、もうこうなったら、ドラえもん～、タイムマシンよこせ、コラ！

まあ、運命のお姫様ふたりめ、おかわり、帰ってきた運命のお姫様リターンズとかもあるやもしれぬ。

ドラえもんが使えないせいでタイムマシーンが無理なら、のんびりと第二次ベトナム戦争を待つだけ。今のベトナムより昔の、ベトナム戦争当時のベトナム。

まあ、アメリカさんがまた東南アジアで戦争をおっぱじめるまで見だなくて。例のおじさんたまり場でカレンを進められた後、「世界初インドシナ半島のアメリカに侵略された国専門の戦場カメラマンだ、早く戦争よ起これ」と思ったこともあった。

最初はベトナムに捧げるって決めたっぺ。もう迷わない。叶わない恋でも報われない恋でもいけない恋でもいいの。

確かに初恋は叶わないものらしいけど、純愛を貫くってのもあるわけだから、アレじゃん、アレ。

とにかくこれから先の人生は、本命の戦場が現れるまでって言うか、既に現れているわけだけどベトナム戦争の戦場にタイムマシーンで行くか、はたまたベトナムがアメ公と戦争するまで。とにかくこれから先の人生は、本命が現れるまでって言うか、または、ベトナムがアメ公とまた戦争するまで。

本当の恋が見つかるまでずっと待つつもり。ドテかぼちゃの馬車に乗ってお姫様が迎えに来てくれるように、本当に大好きなああのベトナム戦ちゃんが現れるまで。

ただひたすら、白馬の王子様だけをずっと待ち続けて、他の男には見向きもせずに、ふと気付けば中年になっていた女性に、本当は恋する気なんて最初から更々なかったんだらうなんて言えるかい。

デジャブ？ ハイ！

しかも遠の昔に白馬の王子様はもうとっくに死んでいると気付いていたのにだ。二人目の白馬の王子様なんて、きっと現れるはずがない、一人目の白馬の王子様を知れただけでもラッキーだっていうのに。それでも待ち続ける貴女と私の半端じゃない覚悟。

ちなみにばばあなのに処女なんて気持ち悪い例え話はもうどうでもいい。また二股狙いだけど、この手の二股なら別にいいだろ。いきなり、かなり無理目が発覚の本命のベトナム戦争の戦場（故人）のことは置いておいて、おいおいゆっくり料理してやるからな。

大事なものは未来じゃない、今だ、この瞬間だ！ 未来の自分、その節になったら、よろしく～（そんな、こちらこそ、いつもいつも結構なもんを貰うばかりで、送り返せるもんなら全部送り返したい！ 以上、2012年の俺）。

話が堂々巡りの無限ループをお楽しみください。嫌がらせのお裾分けですから。遠慮なく。立ち読み貸し読み盗み読みは死ぬよ、苦しんで。

実際問題、今すべきは、カレンにお別れの挨拶。とりあえず、少なくとも分かったのは、じ

やあ、もうカレン族なんて一切興味ねえよ。二号、妾、代用品ですらない。最初から都合のいい女、黙ってポイして、さようなら。

いけない、またブスの話を。いい加減、ブスの話はもうこの辺にして。いけない、いくらサセ子にやらせて貰えなかったからって、そういう言い草は。それはそれ、これはこれ、サセ子はサセ子、コラ！

戦場紳士として、最低限の礼儀、よろしく哀愁くらいは、カレンにイタチの最後っ屁で。きっとそんなこの期に及んでの突然の衝撃告白、二股宣言、乗り換え宣言、お前なんか最初から遊びだった宣言しに行こう、そんな浮ついた気分で、よろしく哀愁くらいは、最後っ屁でしに行こうとしたから、都合のいい戦場のカレンちゃんもさすがに怒るかもよ。ブスはせめて愛嬌なのね。

そんな予感にあらかじめ気付いたカレンにまんまと先制攻撃のスカシッ屁をくらわされたのかも、あの交通事故は。

まあ、そもそも、やり捨てどころか、散々その気にだけさせて、結局3コスリ半さえてないのに、お別れも何もあったもんじゃない。

まあ、実際幸いにも、見合いのホテルの下見に行って、直前で逃げ出ただけだから、見合い直前で逃げ出すよりマシだし、結婚式直前でウェディングドレス姿で逃げ出すよりはずっとマシだろう。

救いはコレだけだな。

唯一の救いは、たぶんアッチ、カレンちゃんは俺のこと知らないから。鈍感、間抜け、ヌケ作！男に恥かかせて。このまま会うことなく、お別れするのがいい。

下手したら、一目お別れに行ったら、行きがけの駄賃感覚でちょっと取材しちゃうかなあとミイラ取りがミイラになっちゃう恐れもあるしね。焼けぼっくい、いやぼっくいに火がつく。火のないところにも煙は立つから。肘鉄食らわされるかもしれない。

だからもう余計なことはしない。一生取材しない、それもまた新しい斬新な自称プロ戦場特派員像じゃないかな。

この世の戦場は全部ブスってことにして、あの世の遠の昔に終わった戦争をわざわざ持ち出して、今後一切戦場に行かなくても済むような大義名分をこしらえたわけじゃないもん。

後、ちょっと自称プロ戦場特派員引退宣言が入っている気がするが、気のせい気のせい。

本気見せるためにはこの24歳という引き返すには全然遅くない年齢はよくない。もう完全に手遅れな年齢になるまで雌伏すべきだ。りょうまだって、30歳まで何もしなかった。しかも、あの時代の30歳だから、今なら40過ぎまで何もしないで雌伏するド根性。

昔偉い人が「男はどうしても荒野の果てを目指す時が来る」、その時が来た！後は腹を据えて、誰も歩いたことない道なき道をただゆくだけ。

これから先、必要なのは何もしない勇気。これから先、必要なのはあえて何もしない勇気。何もしないってというか、何もしないをするっていうのかな。

### ●ココに何もしない勇気論

20代をドブに捨てるおちゃめなチャームポイントだけあればいいよ。10年一昔、10年先

のことなんて誰にも分かりしない。だって、一寸先すら闇なんですから、いったらんかい！  
というわけで強引にまとめに入ると、中2で生まれつき自称プロ戦場特派員と気付いたように、24歳で生まれつきベトナム戦争の自称プロ戦場特派員と気付く。

戦場童貞捨てる旅から鞍替え、運命の戦場探しの旅に、自分探しの旅とは一味も二味違うぜ。  
メソトカラチャブリかバンコクかチャンマイかまあ、タイが自称プロ戦場ジャーナリストの発祥の地と言うことで、よろしく！ 生誕の地は日本国はどっか。

ただ歌舞伎の家に生まれたから歌舞伎役者になる道が敷かれていたみたい（マックのマニュアル以上のものをご用意されて）、生まれつき自称プロ戦場特派員ってことは好き嫌いじゃなくて、そういうこと。まあ、歌舞伎なんてアレだけど。もちろんレベルが低いというか基礎というか普通なら何とか覚えられる感じで教えをつなぐという意味では伝統はもともとそうじゃなきゃ、伝わらない。

他の生まれつきネタだと俺は単なる天の邪鬼、ひねくれもの、頑固者、ふざけてるし、おちよくっているし、不真面目だし、小馬鹿にしてるし、性格悪いし、偽善者でも偽悪者でもないかと言って悪ぶって本当はいい人路線でもない、良くも悪くもいろいろ思われたい。

（2012です。果報は寝て待て白馬の王子様待ち伏せ作戦も今年で12年目。とりあえず中間報告すると、この12年間、運命の戦場はまだ現れていません。石の上にも3年なんて甘いね。石の上に軽く10年。しかもその10年は20代半ばから30代半ばという貴重な時間。まさに失われた黄金の10年になるとはこの頃露知らず。）（2020です。1999年も2000年も2011年も2012年もこいつらはホントまとめてダメ人間だ。2000年から20年以上経った今も結局、俺はまるで鍵の落ちたバイクみたいに止まることもできず、ガソリンがなくなるまでノロノロ走り続けるしかない。そんなのイヤンかい？ なんだけど、しかし俺の身体の中には、ガソリンが無尽蔵ときている、さすが生まれつき自称プロ戦場特派員、今だって平気な顔して突っ走ってるぜ、45歳とは思えない早さで）。

ようやく長い白昼夢が終わった。炎天下の路肩にいたから頭がぼっ～としてきちゃって、知らぬ間に時間が無残にも過ぎ去った。

よし、偶然をうまく生かし、とってもいいいい訳をこさえられた。

今更だけど、本当は俺、今日難民キャンプにお別れをしにいくつもりだったんだ。あやうく、その途中にこの世にお別れしそうになったけど。さよならするのはカレンだけでいい、まだこんにちもしてないけど。カレンの代表を難民キャンプとみなして。なぜって。もうイヤになったから。そしたら幸先よく交通事故が柵からポタモチ。

これで当分いろいろと困らないぞ。少なくともこの先10年間は何もしなくていい、それでも立派な自称プロ戦場特派員っていう免許、免罪符を道端の短時間でゲット！

12年後、つまり2012年あたりに更新すればいいさ、がんばれ、未来の俺（2012年の俺、ご覧の通りがんばって更新中）。

さあ、とりあえず方針は決まった。事故後の路肩で。まだ見たことすらないまま、器用に捨てた女にサヨナラすらしに行かないことを決めた、女泣かせのジゴロみたいだが。

いい意味で、いい方向で、ポロポロだった心がついに完全に折れたのだ。首の皮一枚でつなが

っていた、緊張の糸が完全にブチ切れたのだ。もう自分を、これ以上偽って、騙せない。俺はベトナムちゃんがよかったと気付いてしまった。今更カレンなんていやだ。

突如、未来まで覆う暗雲が。スコールがすぐに去る。晴れ間が見えた。以上のようなお告げ、天啓を受けた。もうカレンちゃんなんかには用はない。

さ、もうこれ以上の帰国理由はでっちあげることも難しい、この機会を逃すべからずと帰国とさっき言った舌の根もくだらないおしゃべりの間にかかなり乾いてきたので、そっと後押し、ダメ押しで大放出！　ここぞというときのために、ずっと温めてきたヘソクリみたいな帰国理由もここぞとばかりにおもてなし。

ま、平穩無事に事を終えて何よりじゃ。そっと背中を押してやろう。

ついにずっと温めていた伝家の宝刀ネタ、ネタって言うな！　もうそんなグーの音も出ない、最終ネタを抜くときがきた、背水の陣をひいて、本当に逃げ道なしなのは、かっこつけのバカだけだ！

あのねのね、もうすぐお部屋の更新なの。日本は池袋の賃貸アパートを引越ししないと追い出されちゃう。更新料を払って、高い家賃を払い続けるよりも、引越代はかかるがもっと安いところに引っ越さないと長い目で見たら損しちゃう。まあ、こういうもんに左右されるんだよ、人生とは。

そんなことより、すごいこと思い出しちゃった。今までコロツときれいさっぱり忘れていたよ。

実はラチャブリ事件を知った電話の際に、息子さんに連絡が取れないって不動産屋から連絡があったって、連帯保証人でもある日本の情報提供者から聞いてたわけ。別に嘘はついてないも～ん、黙ってただけだも～ん。ま、他にも黙っていることならいっぱいあるんだけどね～、あはっ。

こちとら、職務上の守秘義務ってもんがあんだよ。ああ、なんて便利な言い草かしらん、よかった自称プロ戦場特派員稼業で。

早く帰国して部屋探ししないと、もっと家賃の安いところを、更新料払いたくないなあ。常日頃からのこういった地道な節約の心掛けが一番肝要じゃん、自称プロ戦場特派員なんて儲からないし、死んで初めてちょっと名前が売れる仕事なんだから。

これはもう何はさておき、第一優先で帰らなきゃいけない。ピザの有効期間はまだあるし、航空券もフィックスじゃないから、最長〇日まで入れるけど。

本当は、取材がうまくいったら、部屋を勝手に撤収されてもいいや、てか親がどうにかするっしょとか思ってたけど、見られたくないものとかあるし（さて、この話が本当かしらん。これなら12年前に発表しても問題ない。12年後の今ですら、やっぱココからはまだ発表できない事情があるのかもよ。想像にお任せします。答えはそうね、2020年になったら。ただ今、2012年の俺でも言えることは、この後身の危険を感じ、すぐさま行方をくらまし、地下に潜り、急いでバンコクに戻って、そのまますぐに国外脱出を決意。身の安全。吉報を待つ。これ以上は守秘義務がある。情報提供者の命を危険には晒せない）。

カレンちゃんには何もできませんでした。それでいいんです。俺がダメな初取材を演じれば八

方丸く収まって、これ以上の血が流れないなら。

まあ、歴史の暗部をほじくりかえすと公言した手前、公式発表としては、「この交通事故を揉み消したから10年間の沈黙を余儀なくされた」とでもしておきましょうか。信じるも信じないも自由。

後何もしない勇気に気付く。海底奥深くに住む深海魚みたいに潜伏したせいで、有り得ない風に独自の進化をとげた自称プロ戦場特派員の生態。元々こういう姿だったのかも知れないが。

13時、精神安定剤代わりに、ブス払いと本命との恋の成就を祝って打ち上げだ、その資金、銀行で100ドルを3668Bに両替。打ち上げだ、お疲れちゃん会だ、パツ〜と行こう。タイに来て二ヶ月、某ジャーナリストのたまり場に顔出して約1年、生まれつき自称プロ戦場特派員だと気付いて10年、戦場ジャーナリストと生まれて落ちて24年間、すべてをひっくるめたお疲れ様の打ち上げだから。」

せっかく自称プロ戦場特派員として生まれ落ちたのに、24年間もフラフラと中途半端に生きて参りましたが、ようやく道が見えました。悟りです。誰もなんと言おまいが誰が見てなかつたが俺はこの先、この道をただ一人一歩一歩進むだけでございます。

この世知辛い世の中で、己の運命を見つけられるだけで御の字、その運命の才能があれば人生丸儲け、運命の才能が100年に一度だったら天国行きがお約束。

更に、その進むべき道まではっきりみつき、己の運命に気付き、しかもその運命の才能に恵まれる。

また更にたまたま運よく、その先にある業界が食える業界でその道で食っていけるなんて、盆と正月が一遍にやってきたみたい。

更に更に、その道で食えるだけでなく、大金を稼げたり、有名になれたりするなんて（自称プロ戦場特派員という職業上顔が知られていいことはひとつもないので、コレはいらねえけど。その分、銭よこせ！）、宝くじが当たるみたいなもん。

もし万が一、ただでさえ、大金を稼げるのに、更に一攫千金のチャンスまであるなんて、宝くじが当たった日に隕石が頭の上に落ちてくるようなもん。そんな奴は死ね、二度も三度も。

まあ、うちは食えない業界だけど、俺は自称プロ戦場特派員界では100年に一人の逸材だからいいや。

いつかこの業界に希望者が殺到し、裾野が広がりさえすれば大金持ちだ。

俺レベルになるとどんなに業界が大きくなって、業界人口が増えたってトップに君臨したまま、だって100年に一人の逸材だから。逆にどんなに業界が小さくなくても俺はトップのまま。プロ野球のドラフト1位なんて12球団で12人もいる。つまり1ヶ月に1人の逸材だ。この程度は業界が10倍になっても、業界が10分の一になっても、生き残れないだろう。

たまたま業界がでかくって、1年に1人の逸材レベルで金稼いだり、ちやほやされてるからっていい気になんない。

金は社長界が、知名度は芸能界が有利なんだ。3流の社長さんでもほとんどの業界の100年



に1人の逸材より金は稼いでいるだろうし、3流の芸能人でもほとんどの業界の100年に1人の逸材より顔や名前は売れているだろう。

だから判定基準、ものさしは金や知名度ではなく、その業界の大小や、その業界の特性に左右されない、その業界で何年にひとりの逸材かってモノサシで勝負だ。

そんなどうでもいいことを考えながら、バイクを運転し、目外に戻る。セブンイレブンで昼食を買って(78B)、ホテルに逃げ帰る。

15時、善は急げ、気が変わらないうちにとバンコクへVIP待遇で逃げ帰る気分で大スターミナルへ。「長い間お疲れ様、自分様」の感謝の気持ちを込めて、帰りも当然、VIPバス(420B)を予約。

今までは知らなかったから仕方がないが、ベトナムの戦場といういいはずけがいたのを知ったわけだから、こんなところでいつまでも油を売る不貞行為を続けられない。

まあ、交通事故を起こして、逮捕されるとアレだし、部屋を更新しないときっと追い出されるんだけどね、てか学生さん時代は親が保証人でよかったけど、自称プロ戦場特派員に貸してくれる部屋はあるのかい。さあ～。

VIPバスの切符を無事に買ったので、最後のメソトツーリングを楽しむ、ガソリン消費のために。別に見納めとかじゃないから勘違いしないでよね。この日にガソリンは入れたか? 入れてない。渋々レンタバイクを返しに行く。まだ借りてたった6時間、返却期限まで後18時間も残っているので、ここ最近毎日連続で借りている上客だから、半日分でいいですよと半額くらい返ってくるかと思ったが返ってこない。たった4時間で160Bは高いって顔をしてみせる。変化なし。そんな餞別が俺にはふさわしいのかもな。まあ、損害はないので俺も事故ったことは告げない。ふん、リップサービスすらしないぜ。こっちのチップさ。とっておきたまえ。

よくよく考えるとコレはコレで別の宇宙の意志、宇宙の悪い意志、悪意なのかも。思えば、このバイク屋の親父だけは、悪い宇宙人の黒幕なのかも。

生まれつき自称プロ戦場特派員で、ベトナム戦争で殉職した戦場特派員の生まれ変わりだなんて戯言には宇宙のいい意志、善意を感じるが。

俺は生まれたときから、ここメソトのバイク屋の親父に会いにくることが宿命づけられていた。手の込んだ宇宙人のイタズラじゃねえの。じゃあ、何かい、俺は自分が自称プロ戦場特派員とちょっと間違っただけで気付いた14歳から、いや、自称プロ戦場特派員として生れ落ちたときから、24歳のときに、メソトのレンタバイク屋の親父に会うために生きてきたのか。運命の人じゃん。

17時、バイク屋から歩いて、ホテルに戻る。涙の涙の最後のパッキング。最近はずき去りのままで、ひさしぶりの出番の今日も役に立たず、詰め込んだガイドブックは役に立ったが、

「ちょっと目を離したすきに盗まれちゃった」んでっていう帰国理由にすらなりそこねたカメラバックをナデナデ。結局、一回も使わなかったなあ。いつか陽の目を見るさ(2012の俺、ビデオは温存故障、カメラはデジカメ買ったから使ってない。消費期限●年のフィルムにいたっては、いまだ押し入れの奥深く、ダンボールに入れて取ってあるけど、大掃除のときに開けたらすっぱい匂いがして、すぐ蓋閉めた)。

19時30分、メソト最後の晚餐（78B）。

20時、ホテルに戻り、まとめておいた荷物を持って、チェックアウト。6連泊した客が、半日でチェックアウトするのに、当然返金はなし、こんなボロホテル、バイク屋ともども潰れるがいいさ。モトサイ（20B）でバスターミナルへ。下手糞な運転だ。俺の方がうまいぜ、さっき事故ったホヤホヤだけど。

20時30分、バスターミナルに着く。水と菓子（14B）を買って、バンコク行きのVIPバスに乗り込む。

21時15分、バスでメソトを後にする。その瞬間、UNHCRのメソト支部のことを、ラチャブリ発のまさにその瞬間に国境なき医師団のラチャブリ支部のことを思い出したように思い出すが、後の祭り。もう、そういうことは早く言ってよ。

さて本題です。今度こそ、トイレはバスでと思っていたのに、バスのトイレは乗った早々、乗り物酔いしたらしく、トイレでゲーゲーとターバン巻いた髭姿のインド人商人らしきが占拠。

しかもご丁寧に扉をちょっと開けてあるおかげでVIPバス中、ゲロ臭いの何のってオェ〜。ずっとトイレに籠っていたインド商人らしきがようやく出てきたトイレをしばらく時間を置いてちらりと見に行ったら、使えるどころかももう書くのもおぞましき状態。

そこをあえて、どういう有様だったか、自称プロ戦場特派員の矜持で、取材力と文章力を発揮して一言だけ言わせてくれ。

じゃあ、さあ、一緒に言おうぜ、みんな、用意はいいかい。

これぞ、まさしく、せ〜の...「インド人もびっくり!」。本場のインドカレーみたいなゲロ百景。

ったく、乗った早々のバス酔いって、子供かっ! まあ俺も象酔いしたが、あれは体調が、腹の調子がアレだったからだもん、子供かっ!

まあ、夜だからね。夜の話だからね、許してチョンマゲ! トイレが即席のカレー屋みたいになってたの。ちょっとお好み屋テイストも。なんか帰国できて超浮かれているみたいでごめんチャイナ!

また検問が行き同様、何度かあったようななかったような、もうどうでもいいよ状態。あたしゃ、どうせしがない、単なるちょっと荷物の多い観光客ですから。腰、痛〜い。あ、でも、ほら、観光ピザだって持ってるし、一応。

結局、バスのトイレはインドなので、サービスエリアでトイレ代3B也を支払い、まあ、確かにトイレの門番おばさんがいないときに、もしくは居ても無視すればいいのだが、例え帰国することが決定しても、そこは世の不正を憎む、清廉潔白な自称プロ戦場特派員として、例え誰も見てなからうが自らを厳しく律しなければいけないゆえ、ちゃんと払って、こうやってブーブー書くんだい。飛ぶ鳥後を濁さずを地でいくぜ。

（2012年の俺。さあ、明日の朝、本当に無事バンコクに着いて、明日の夜、ホントに無事一筋縄で日本に帰れるのでしょうか?）

○本日の出費、「計算するのが面倒臭いから、各々で適当にしといてよ」B。ついでに一日の流れも「いちいちうっとうしいから誰か簡単にまとめといて」ジャ〜。

『12年前日記 2000年2月3日(木)』

<http://p.booklog.jp/book/43739>

著者：山田夫妻

著者プロフィール：<http://p.booklog.jp/users/yamadafusai/profile>

感想はこちらのコメントへ

<http://p.booklog.jp/book/43739>

ブックログのpapier本棚へ入れる

<http://booklog.jp/puboo/book/43739>

電子書籍プラットフォーム：ブックログのpapier (<http://p.booklog.jp/>)

運営会社：株式会社paperboy&co.